サイコパシーにおける非機能的態度と抑うつ傾向の関連

○大隅尚広^{1, 2}・大平英樹¹

(1名古屋大学大学院環境学研究科・2日本学術振興会)

キーワード: サイコパシー; 抑うつ; 非機能的態度

The Relationships between Depressive Tendency and Dysfunctional Attitudes in Psychopathy

Takahiro OSUMI^{1,2}, Hideki OHIRA¹

(1Graduate School of Environmental Studies, Nagoya Univ., 2Japan Society for Promotion of Science)

Key words: psychopathy; depression; dysfunctional attitude

目 的

人は社会的生活を営む中で、ネガティブなライフイベントに対して抑うつ反応を引き起こす。しかし、抑うつ脆弱性の個人差は大きく、特にサイコパシーは抑うつとは対極的な概念であることが示唆されている (Lovelace & Gannon, 1999)。サイコパシーとは、冷淡さ、利己性などの特徴を示す一次性的 (Primary Psychopathy: PP) と衝動性、行動の非制御などを含む二次性 (Secondary Psychopathy: SP) という 2 つの下位概念から構成される人格特性である (Hare, 1991)。抑うつ反応を示す認知プロセスとして、自動思考、推論の誤り、そして抑うつスキーマとしての非機能的態度が挙げられるが (Beck, 1976)、サイコパシーにはこれらのプロセスに何らかの特異性があることが推測される。

本研究では、抑うつに至る認知プロセスの一つとして非機能的態度を測定することにより、サイコパシー特性と抑うつ傾向の関連性・非関連性の認知的側面を検討することを目的とした。

方 法

調査対象 日本人の大学生と大学院生 409 名を対象とし、講義内で質問紙を配布した。回答者は調査者より、回答が強制ではなくいつでも中断及び放棄することができることを伝えられ、回答は完全に任意に行われた。調査期間は 2009 年 4 月中旬であった。欠損なく全ての質問に回答した大学生 371 名 (男性 247 名、女性 121 名、不明 3 名、平均年齢 19.7±1.6 歳) の回答を分析対象とした。

質問紙の構成 以下の 3 つの尺度に関して、各質問紙の注意事項をよく読んだ上で回答することを口頭で説明した。

(1) **PSPS** 社会における実生活に関する表現を各項目に用い、大学生などの一般人口におけるサイコパシー特性を測定するために Levenson et al. (1995) によって開発された一次性的・二次性サイコパシー尺度 (Primary and Secondary Psychopathy Scales) である。PP16 項目、SP10 項目の計 26 項目からなり、「1. 全く当てはまらない」から「4. 非常に当てはまる」の 4 件法で評定する。杉浦・佐藤 (2005) による日本語版を用いた。

(2) **SDS** Zung (1965) によって作成された抑うつ症状を測定する自己記入式抑うつ尺度 (Self-rating Depression Scale) である。20 項目からなり、「1. ほとんどない」から「4. いつもある」の 4 件法で回答する。日本語版 (福田・小林, 1973) を用い、日常的な気分としての抑うつ傾向を測定した。

(3) **DAS24-J** Power et al. (1994) によって開発された 24 項目版の非機能的態度尺度 (Dysfunctional Attitude Scale) であり、達成動機 (8 項目)、自己制御 (8 項目)、他者依存性 (8 項目) からなる。「1. 全く当てはまらない」から「7. 非常によく当てはまる」の 7 件法で評価する。Tajima et al. (2007) による日本語版を用いた。

結 果

抑うつ傾向との関連 非機能的態度の関与を検討するため、相関分析を行ったところ、男女別に見ると、抑うつ傾向は、男性では達成動機と、女性では他者依存性と正の相関があることが明らかとなった。また、サイコパシー特性との関連については、PP は抑うつと関連しない一方で、SP は正の相関が見られた。

表1 抑うつ傾向との相関関係

	サイコパシー特性		非機能的態度		
	一次性的	二次性的	達成動機	自己制御	他者依存性
全体	0.08	0.43 **	0.24 **	0.01	0.11 *
男性	0.09	0.43 **	0.27 **	0.07	0.10
女性	-0.04	0.44 **	0.15	-0.16	0.18 *

**: $p < .01$, *: $p < .05$

サイコパシーと非機能的態度の関連 サイコパシー特性と非機能的態度の各下位尺度の相関分析を実施した結果、PP は達成動機、自己制御と正の相関、他者依存性と負の相関が見られた。SP では、達成動機と正の相関が確認され、また、特に女性において他者依存性との正の相関が見られた。

表2 サイコパシー特性と非機能的態度の相関関係

		非機能的態度		
		達成動機	自己制御	他者依存性
サイコパシー	一次性的	全体	0.29 **	0.30 **
		男性	0.30 **	0.28 *
		女性	0.09	0.16
	二次性的	全体	0.15 **	0.03
		男性	0.11	0.03
		女性	0.14	-0.13

**: $p < .01$, *: $p < .05$

考 察

抑うつに至る認知変数としての非機能的態度の種類は男女によって異なることが明らかとなった (男性では達成動機、女性では他者依存性)。これは、性別ごとの生物学的要因や社会・文化的役割が背景にあると考えられる。しかし、男性では達成動機とサイコパシーの PP が関連性を示すにもかかわらず、PP と抑うつに関連が見られなかった。したがって、非機能的態度と抑うつとの関連性を打ち消す認知や感情のバイアスがサイコパシー特性にあると考えられる。このことは、ネガティブあるいはポジティブな自動思考など、サイコパシー特有の認知プロセスに関する更なる検討の必要性を示唆する。

引用文献

- Lovelace, L., & Gannon, L (1999). Psychopathy and depression: mutually exclusive construct? *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, 30, 169-176.
- Tajima, M., Akiyama, T., Numa, H., Kawamura, Y., et al. (2007). Reliability and validity of the Japanese version of the 24-item Dysfunctional Attitude Scale. *Acta Neuropsychiatrica*, 19, 362-367.